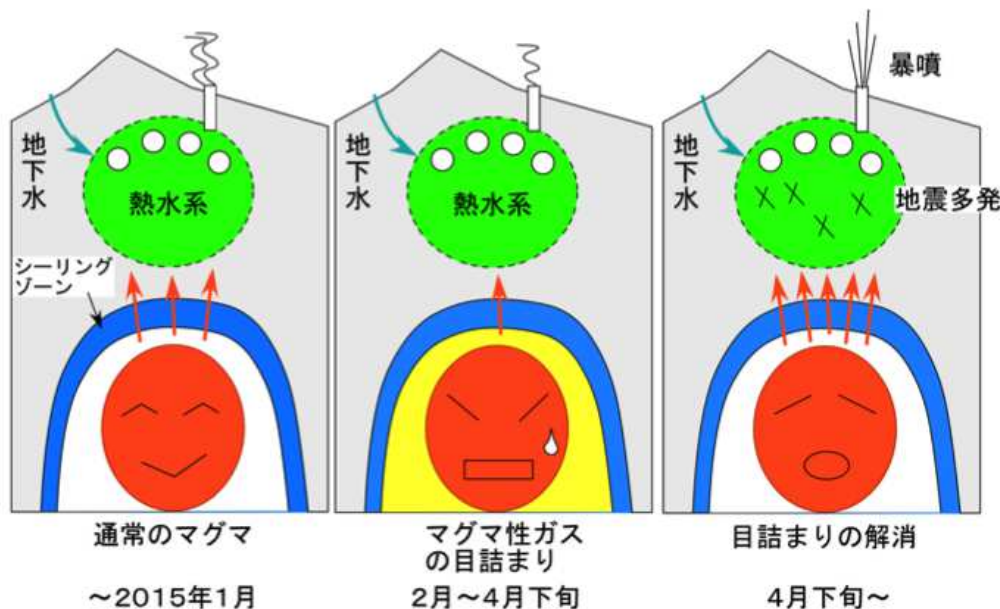


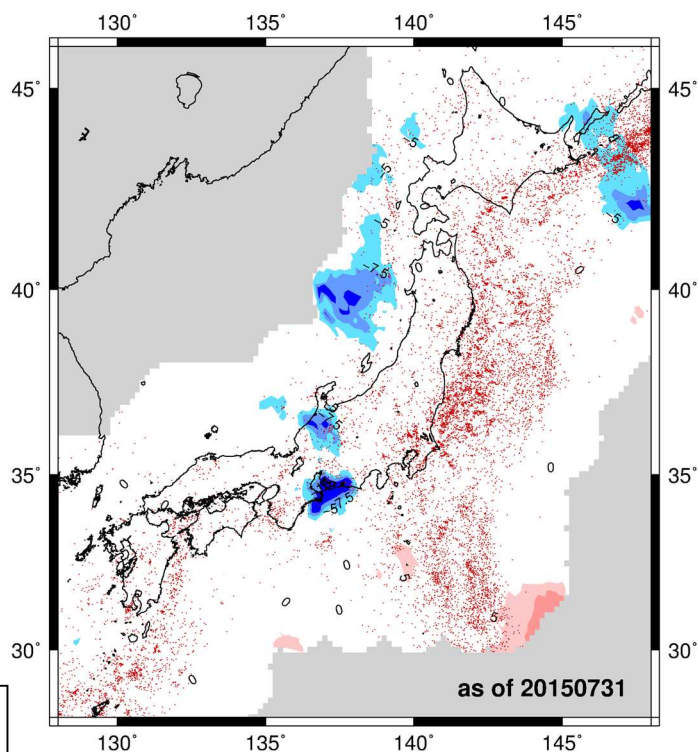
箱根の現状

9月11日に気象庁が噴火警戒レベルを3から2へ変更しました。地震活動は相当低下しましたが、まだ火山性ガスのレベルは依然として高い状態が続いています。下の図は東海大学の^{大場武}教授の箱根・大涌谷に関するポンチ絵です。4月以降、マグマを抑えている地層（キャップロックといいます）に定常的なガスの通り道が出来てしまったと考えられています。大涌谷の噴気が以前のレベルに戻るのにはまだかなり時間がかかりそうです。



日本全域のM7クラス以上の地震を対象とした地下天気図

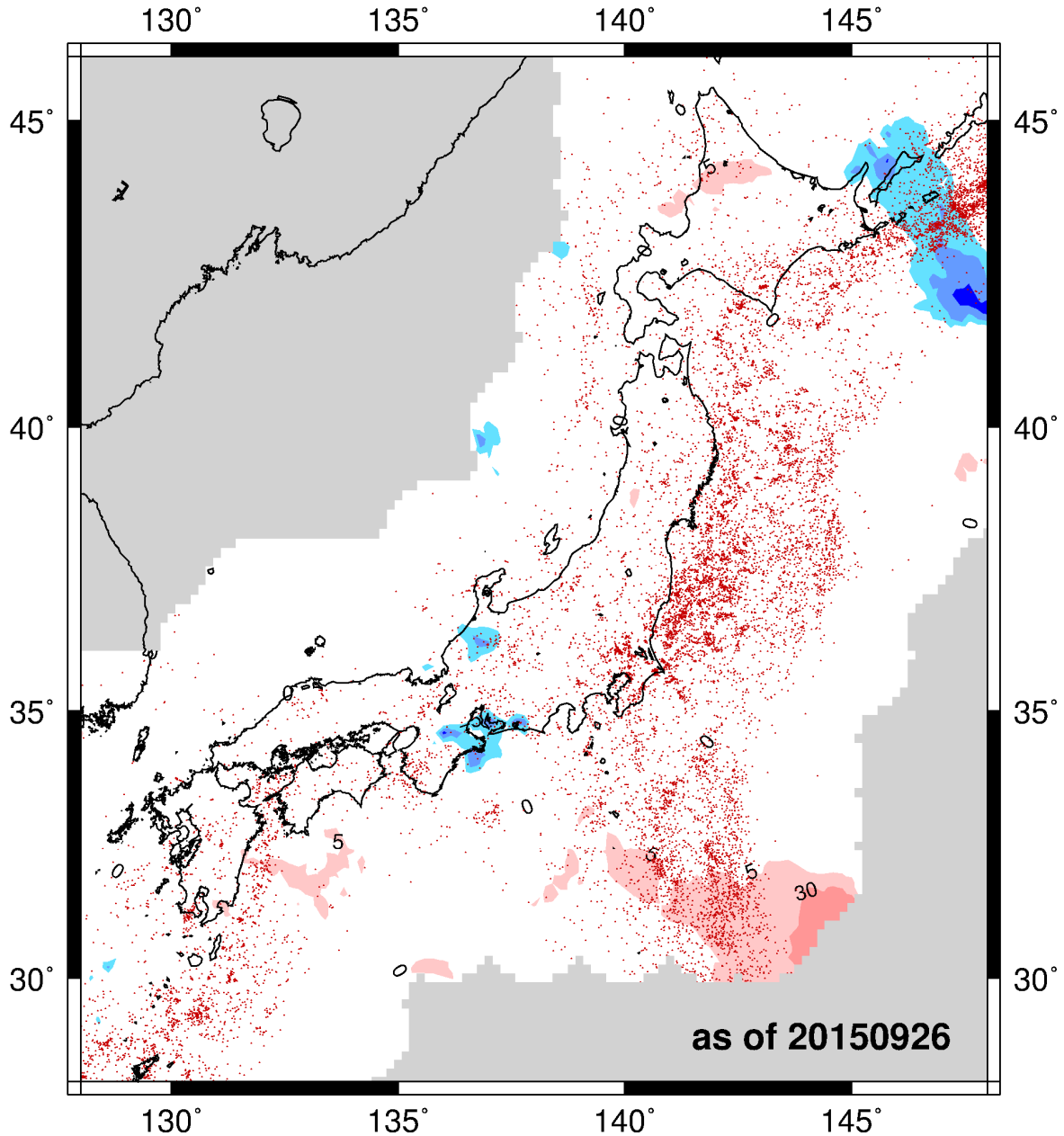
8月7日のニュースレターで、日本列島全域の7月末日時点の地下天気図をお示ししました。その図では日本海の異常、愛知県から紀伊半島にかけての異常についてコメントをいたしました。今回のニュースレターでは、9月26日時点の地下天気図をお示しします。



前回のニュースレターでお示した7月31日時点の地下天気図

最新（9月26日時点）のM7クラス以上の地震を対象とした地下天気図

日本海に継続的に存在していた青い領域がほとんど消失しているのが大きな特徴です。さらに愛知県から紀伊半島にかけての異常や北陸地方の異常も小さくなっています。これらの変化はここ1ヶ月ほどで急激に進行しました。少し日本列島全体の地震活動が変化しだした可能性があります。日本海では1993年に発生した奥尻島に大きな津波被害をもたらした地震（北海道南西沖地震）や1983年の日本海中部地震など、津波を伴う地震が発生する事があります。もちろん東日本大震災のような超巨大津波ではありませんが、今後の推移に注目したいと思います。



次回のニュースレターでは日本の陸域をターゲットとした解析を行う予定です。